

**淀川水系流域委員会 第 82 回運営会議 (06. 12. 25 開催) 結果報告** 2007. 1. 4 庶務発信

開催日時	2006 年 12 月 25 日 (月) 10:00~12:35
場 所	ばるるプラザ京都 4 階 研修室 2
参加者数	委員 9 名 河川管理者 3 名

**決定事項 および 審議事項**

① **ダム等の管理に係るフォローアップのスケジュール確認**  
審議資料 1「部会・WGにおける意見募集スケジュールについて」を用いてスケジュールの確認がなされた。

② **利水・水需要管理部会、意見聴取反映WG、水位操作WGの状況確認**  
審議資料 1「部会・WGにおける意見募集スケジュールについて」を用いて、部会・WGの状況について確認がなされた。主な意見は以下の通り (例示)。

- ・委員から頂いたご意見をもとに提言「水需要管理に向けて」を若干修正している。第 55 回委員会 (1/11) には「案」として提出し、少数意見の募集についてお願いする予定だ。  
←内容に関わる修正以外 (誤字脱字、表現等) については、期限を設けずに意見を受け付けたい (委員長)。
- ・「水需要管理に向けて」と「住民参加のさらなる進化に向けて」は、これまでの委員会活動の集大成なので、簡易製本をした上で関係者に配布したい。河川管理者と庶務には必要な費用等について確認してほしい。
- ・流域委員会が作成した提言や意見書の著作権を明確にしておくべきだ。河川管理者には確認をお願いしたい。

③ **地域別部会の進め方について**  
審議資料 3-1~4「地域別部会議事次第」を用いて、1 月に開催される各地域別部会の進め方について検討がなされた。主な意見は以下の通り (例示)。

- ・地域別部会では、「報告」は各部会に関連する内容にとどめ、できるだけ「審議」に時間を割いて頂きたい。1 月 8 日の地域別部会の事前会議は 3 部会合同で 10:00~12:00 に開催する (委員長)。

④ **第 55 回委員会次第確認**：資料 4「第 55 回委員会の議事次第(案)」について確認がなされた。

⑤ **ダムワーキングの進め方**：ダムWGの進め方について意見交換がなされた。主な意見は以下の通り (例示)。

- ・ダムWGでは次期委員会への引き継ぎ事項を審議したい。これまでの資料や意見書で網羅されているとは思いますが、あらためて河川管理者に伝えたい意見を提出する (委員長)。
- ・大戸川ダムと全閉操作について十分な議論ができていない。水位操作WGでどう扱うか。大戸川ダムと全閉操作に関する知事の発言を委員会としてどう扱うのか。整理しておかないと意見が言えないのではないかと委員会の中で整理・確認をして欲しい。

⑥ **今後の会議等開催日程について**：今後の会議開催について検討がなされ、下記の会議開催が決定した。  
第 11 回ダムWG検討会 1 月 15 日 10:00~13:00 みやこめっせ

⑦ **その他 (今後の流域委員会、レビュー作成について)**  
河川管理者より、今後の流域委員会とレビュー作成について説明がなされた後、質疑応答と意見交換がなされた。主な意見は以下の通り (例示)。

- ・第 55 回委員会にて、今後の委員会やレビューについて説明させて頂くのでご意見を頂きたい (河川管理者)。
- ・レビューは公開で開催して欲しい。7~8 名による審議では「密室」と受け取られてしまう。  
←公開方法を考えている。大人数の公開の他、別室での TV 視聴やネット配信も考えられる (河川管理者)。  
←傍聴者を限定してもよいので公開で開催した方がよい。議事録は発言者名入りで公開して頂きたい。  
←レビュー委員にとっては、むしろ、公開で開催して結論に至った経緯が分かる方がよいだろう。ただ、全ての会議を公開で開催するかどうかは、レビューが判断することだ。
- ・1 月からレビューを開始するのであれば、第 55 回委員会でレビューに加わる流域委員会委員の候補を決めた方がよい。河川管理者から委員の推薦依頼状を出してもらいたい。
- ・レビュー委員には、河川工学、行政法、住民参加、自治体首長が予定されているが、環境も追加して欲しい。
- ・レビューの目的は、河川管理者による学識者、自治体、住民への意見の聴き方のバランスが悪かったため、これを見直すということなのか。  
←その通りだ。サイレントマジョリティーの意見を聴く工夫も必要だ。自治体には文書による意見照会をしてきたため、世の中には見えていなかった。アイデアの段階だが、市町村による討論会等によって見えている場で意見を出してもらってはどうかと考えている (河川管理者)。
- ・自治体首長から「河川管理者が委員会意見に偏重している」という批判がある一方で、淀川水系流域委員会のような委員会をつくって欲しいという多くの住民の声もあるということも理解して頂きたい。
- ・レビューで配布する説明資料は、流域委員会の意見を聴いた上で作成した方がうまくいくのではないかと。河川管理者だけで進めると疑いの目を向けられるのではないかと。  
←レビューの事務局は河川管理者が担当する予定だ。会議資料は全て公開する。レビューでは、流域委員会が目指したものや工夫、成果、等身大の評価について整理できればと考えている (河川管理者)。
- ・委員会の仕事 (意見書作成) が任期中に終わりそうにない場合、見切りを付けて仕事を終わらせるのか、仕事を完成させるために任期継続を求めるのか。また、この一年間の活動をまとめたパンフレットを作成するために任期継続を求めるかどうか。任期が終了した後でも意見書の修正が可能なのかどうか。委員会として検討しなければならないが、河川管理者にも検討と確認をお願いしたい。
- ・流域委員会には膨大な仕事をお願いしている。河川管理者の説明資料も思うように出せなかった。お願いしている仕事については任期中にお願いしたいが、進捗状況によっては相談もあり得るのではないかと考えている (河川管理者)。

※結果報告は、委員の皆様に必要な決定事項等の会議結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。